

ケンブリッジ大学出版局刊行 (1586—1799年)

古書コレクション

ロナルド・マンズブリッジ著
高橋 晶子・雪嶋 宏一 訳

昭和60年度早稲田大学図書館は、ロナルド・マンズブリッジ (Ronald Mansbridge) 氏収集のケンブリッジ大学出版局刊行古書コレクション、いわゆる「マンズブリッジ・コレクション」(図1)を一括購入した。本コレクションは、ケンブリッジ大学出版局の初期から発展期(1586—1799年)にかけて刊行された図書645点からなり、印刷・出版史上重要な出版物を全て網羅している。マンズブリッジ氏はこの収集を1930年から始め、以来50余年にわたってその拡大に努めた。そのため、本コレクションには、ケンブリッジ大学図書館にも所蔵されていない珍しい資料が含まれている。

このような彼のライフワークは欧米で高く評価され、その結果、現在英米で共同して進められている18世紀英書のマイクロ・コレクション (Eighteenth Century Short Title Catalogue, ESTC) の底本として利用された。

当館では本コレクションの紹介にあたり、マンズブリッジ氏に御執筆をお願いしたところ、氏は次のような氏自身の旧稿を転載するよう提案された。

Ronald Mansbridge, 'A collection of books printed at the Cambridge University Press 1586—1799', *Cambridge Review*, vol. 105, May 1984,

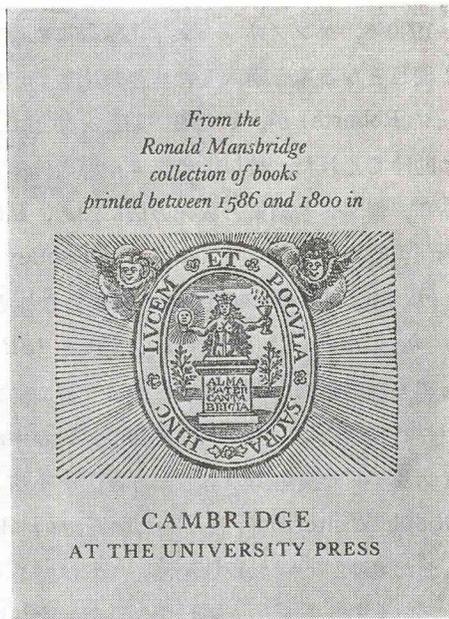


図1 マンズブリッジ・コレクション蔵書票

pp. 93—97.

そのため、本誌では我が国への紹介を考慮して、転載するのではなく、邦訳し、図版を豊富にして掲載することにした。そして、必要に応じて訳注を付した。

なお、本コレクションは現在のところ未整理のため、閲覧は不可能である。また、コレクション自体は、マンスブリッジ氏の指導により今後も拡大される予定である。

ここから光輝と聖杯^{訳注1}

1930年、ケンブリッジ大学出版局に就職した時、私はコレクションの第1冊目となる本を購入した。当時出版局の特別評議員であったS. C. ロバーツ(Roberts)が、私を雇い助言を与えてくれ、さらに、困った時に親切に助けてくれた。彼以上の良き指導者は、どんな若者にも得られなかったろう。習ぶべき編集と販売方法に加え、私は、ケンブリッジの今日の出版物(当時はスタンレー・モリソン Stanley Morison とウォルター・ルイス Walter Lewis の黄金時代であった)と共に、彼が9年前に *History of the Cambridge University Press 1521—1921* の中で記録したような過去の出版物にも興味をもつよう彼に励まされた。

この激励によって、私は最初の給料の中から15シリングをはたいて、ケンブリッジの商店街の有名な古書店デイヴィドでラルフ・ウィンタートン(Ralph Winterton)編 *Poetae Graeci Minores* の17世紀後半の版を購入した(図2)^{訳注2}。17世紀当時これはベストセラーであった。本の状態はひどいものだったが、構わなかった。それ以来収集熱が私を襲い、50年間私をはなさなかった。*Poetae Graeci Minores* は、「ケンブリッジが世に送った最も優雅な本」と言われていた。恐らく、それは、主題に応じて卵や斧、祭壇などの形に版組された頁があったためである。当時、私は、この奇抜な組み方はケンブリッジの印刷家の発明だと思っていたが、後に、それが少なくとも16世紀のアンリ・エティエンヌ(Henri Estienne)まで遡る伝統的なものであることを知った。

翌月、私の婚約者ジョージアは私の2か月目の給料を持って、カタログを見ていた本屋へ行き、たくさんの宝物を持って帰ってきた。その中には、パリパリの紙に印刷され、折り込み地図が引き立って見える Thomas Fuller, *Historie of the Holie Warre* (1639) 初版が含まれていた。これは大勝利だった。というのは、初期のケンブリッジ本を多数収集していた出版局の特別評議員でさえ、紙質がかなりひどい第2版(1640)しか所蔵していなかったからである。彼のコレクションにない本を手に入れることはいつも楽しいことであったが、さらに大きな喜びは、近年G. R. バーンズ(Barnes)が編集したケンブリッジ刊行本の書目に収録されていない本を入手したことだった。

私の蔵書の中で最古の本は、トーマス・トーマス(Thomas Thomas)が1586年に印刷した *An Harmony of the Confessions of the Faith of*

the Christian and Reformed Churches である(図3)。本書は、イギリス、フランス、ベルギー、スイスなどの宗派の異なる教会で、[信仰告白が]どの程度共通して行なわれていたかを示している。ところが、ロンドンとカンタベリーの教会当局は調和どころではなかった。星室庁は本書の印刷禁止令を出した。しかし、ケンブリッジでは副総長を初めとして星室庁を無視して印行した。私は、それがコレクションの最初にあたって言論と出版の自由を表明しているとみなしたい。

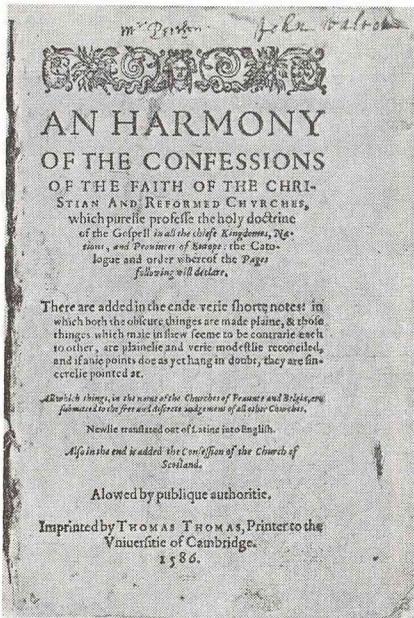


図3 *An Harmony of the Confessions of the Faith of the Christian and Reformed Churches* (1586)



THE HOLY
B I B L E,
 Containing the OLD and NEW
T E S T A M E N T S;
 Newly Translated out of the
O R I G I N A L T O N G U E S,
 AND
 With the former TRANSLATIONS diligently
 compared and revised,
By His Majesty's special Command.
 Appointed to be read in Churches.

C A M B R I D G E,
 Printed by JOSEPH BENTHAM Printer to the UNIVERSITY,
 Sold by BENJAMIN DODD, Bookseller, at the Bible and Key
 in Ave-Mary Lane, near St. Pauls, LONDON: 1762.
CUM PRIVILEGIO.

图 5 The Holy Bible, printed by Joseph Bentham. 1762.

それとは別に、John More, *A Table from the Beginning of the World to this Day* (1593) がある。本書は天地創造の第1年から始まる。そして、アダムとイヴ、カインとアベル、バベルの塔、ノアの洪水へと進む。ギリシアに転じて、ソフォクレスとソクラテスが登場。さらに、「腸の劇痛を訴えた」ヘロデ王の死、キリストの誕生、聖イグナティウス、「ロザリオを発明した」隠者ベテロ、ロンドン橋、「よく蛇を食べていた」イエズス会の創設者のことなどが記されている。

コレクションには、ジェームズ1世の著作 *A Remonstrance..... for the Right of Kings* の1616年版と1619年版が含まれている。彼は文章が下手であったが、この問題に関しては迫力ある表現を見せている。彼が聖書の新しい翻訳を欲したのは王権神授説故であった。今日それには彼の名が冠せられている。当時、一般的であった聖書はジュネーヴ版で、Breeches Bible とも呼ばれていた。それは、「彼らは無花果の葉を縫い合せ、それでズボンを作った」ためである。ジュネーヴ版の翻訳は優れていたが、王は「出エジプト記」第1章17節の傍注のためにそれに不満だった。つまり、ファラオは産婆たちに全ての男の赤児を殺すように命じたが、何人かの産婆は王の命令に背いたという件に注を付けて、「そこでの不従順は正当であった」としていた。ジェームズ王はこれに我慢できず、全く新しい翻訳を作るよう命じたのである。

ジェームズ王の聖書新版は1611年に出版された。ところが、再三の重版により文字通り何百もの誤植が生じてしまった。そのため、ケンブリッジ大学は正確な版を作るよう要請され、1629年に改訂版が刊行された。コレクションにもこの版が2部収められている。それでもなお若干の誤植が残ってしまったため、ケンブリッジは再び依頼を受けた。その結果、1638年ジョン・バック (John Buck) とロジャー・ダニエル (Roger Daniel) により壮大なフォリオ判が印行された (図4)。彼らはそれを大変自慢にして、セント・メアリー大聖堂の扉に、学者に対し誤植探しの挑戦状を貼り、「誤植を見つけた者には誰でも、聖書を無料で進呈しよう」と申し出た程

である。実際、多少の誤植はあったものの、確かに見事な出来栄であった。A. E. ハウスマン (Housman) は我々に、正確さは美徳ではなく義務だと語ったが、私は、特にケンブリッジには正確さが似つかわしいと思う。コレクション全体の中で、祈禱書を附録とするこの聖書が私の最も好きな本である。

コレクションには聖書が27種ある^{訳3}。その中には、ピープス (Pepys) が言及した Field Bible (1660) が3部、Preaches' Bible、大変珍しいベンサム (Bentham)・フォリオ版 (1762) (図5)、そして、バスカーヴィル (Baskerville) 版 (1763) が含まれている。最後のものは、印刷家バスカーヴィル個人のために装丁されたものである (図6)。エリザベス・リーダムニグリーン (Elisabeth Leedham-Green) 博士とデイヴィッド・マクキタリック (David McKitterick) の協力を得て、我々は次のことを立証した。つまり、1世紀以上にわたって聖書の標準的なテキストとなった偉大な

ベンサム・フォリオは、長年信じられてきたようにトリニティ・カレッジのトーマス・パリス (Thomas Paris) が編集したのではなく、シドニー・サセックスの学寮長で大学図書館長であったフランシス・ソーヤー・パリス (Francis Sawyer Parris) によるものだった^{訳4}。

世俗の本に話を戻せば、ジョージ・ハーバート (George Herbert) の詩集 *The Temple* がある。コレクションには5版と6版があるだけだが、[それとは別に]それより10年程早い1623年に刊行された

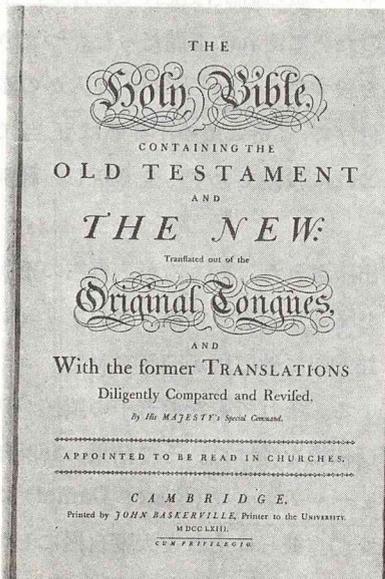


図6 The Holy Bible, printed by John Baskerville. 1763.

特徴ある労作を所蔵している^{訳注5}。ジョージ・サンプソン(George Sampson)はハーバートについて次のように述べている。「彼は世俗的な出世願望を抱いていた。彼は厚かましくもケンブリッジの代表演説者の地位を狙い、獲得すると、恥しげもなくその地位を利用した。」確かに、彼は演説家になり、チャールズ王子のスペインからの無事の帰還を祝う演説を行った。その演説の終りの言葉は、FINIS(終わり)ではなく、DIXI(吾は語った)であった。

テオドール・ド・ベーズ(Theodore de Bèze)が1632年に編集したギリシア語新約聖書のすばらしい版が3部ある。詳しく調べてみると、そのうち1部には版組にはんのわずかな違いがある。時には、1頁で1文字だけが印刷の段階で変えられている。私は、こうした異版の探索が図書を収集する際の楽しみの重要な部分であることを知った。

2冊の注目すべき本がある。一つは、Phineas Fletcher, *The Purple Island and Piscatorie Eclogs*の優美な初版(1633)で、もう一つは、ケンブリッジのプラトン学派ヘンリー・モーア(Henry More)の *Philosophical Poems* (1647)である。今なお大西洋を越えて議論されている問題が、*Warme Beere* (1641)で述べられ、「冷えたビールより、適度に温めたビールの方が健康によい理由が数多く」挙げられている。著者はこう語る。「私は冷たいビールが、舌にも、顎にも、胃へ通じる食道と呼ばれる通路にも、そしてさらには、脳自体にも害があることを証明しよう。」

Carmen Natalitium (1635)は、王族の誕生や結婚、死や勝利に際して、大学が表明した喜びと悲しみを収めた本の成功例である(図7)。最初は質素なフォート判であったが、後には立派なフォリオ判となり、18世紀後半まで出版が続けられた。副総長や教授、大学の主だった人々が、ラテン語、英語、フランス語、ギリシア語、ヘブライ語、アラビア語で韻文を綴った。それらを受け取った王族が作者の苦心に見合うだけの喜びを得たかどうか、あるいは、誰も読まなかったかもしれないが、印刷家にとっては、異国の活字の絶妙な連続をひけらかす機会であった。ギリシア語、ヘブラ

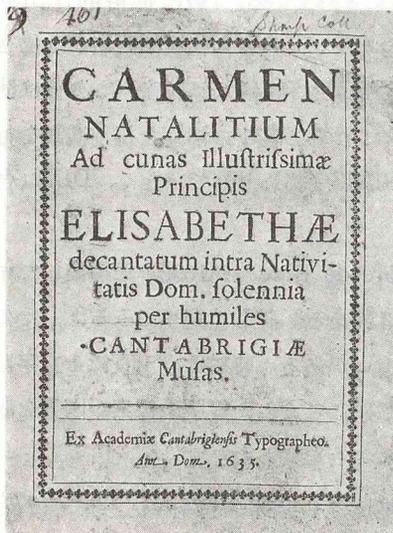


図7 Carmen Natalitium (1635)

イ語、アラビア語の頁は、今日でも印刷を学ぶ学生に賞賛されるはずである。この1635年版 *Carmen* は、チャールズ1世の娘エリザベスの誕生を祝ったもので、ラルフ・カドワース(Ralph Cudworth) や、フランシス・クォーレス(Francis Quarles)、ジョゼフ・ボーモン(Joseph Beaumont)、22歳のリチャード・クラショー(Richard Crashaw)、エドワード・キング(Edward King)らの詩人の作品が収められている。因みに、

エドワード・キングの溺死はミルトン(John Milton)の *Lycidas* の主題となった。

次には、1665年刊行のギリシア語版旧約・新約聖書、詩篇、祈禱書がある。これらの数部には、同じ刊年と、大学の印刷家ジョン・フィールド(John Field)が印刷した旨が記されている。しかし、実際には、あるものは1665年にジョン・フィールドが印刷したが、他のものは、同様に記されていても、1684年、フィールドの後継者ジョン・ヘイズ(John Hayes)が印刷したものだった。

私が特別な関心をもつものは、1669年に印刷されたわずか8頁の本である。それは、「無神論者でホップズ支持者」の廉で告発されたダニエル・スカージル(Daniel Scargill)の *Recantation* である。彼は、コーパス・クリスティー・カレッジにおける特別評議員の地位を維持するために、平伏して自説を撤回したが、成功しなかった。スカージルが王に直訴したため、王は大学当局に再考するよう提言した。コーパス・クリスティー・カ

レッジの卒業生として私は喜んで報告しよう。大学側は、空席はすでに補充されている旨の丁寧な手紙を王に認めて、態度を変えなかったのである。

1675年に印刷されたのは *Royal Charter of the Cinque Ports*^{訳注6} である。その表題紙に描かれた王家の紋章は奇妙である。そこにはお馴染みのライオンと一角獣が表現されているが、ライオンの顔は紛れもなく、ファン・ダイク鬚を生やしたチャールズ1世のものであった(図8)。

18世紀は、ホラティウス、ウェルギリウス、テレンティウス、カトゥルス、ティブルス、プロペルティウスの上品なクォート判のセットで明けた。それらは、リチャード・ベントレー (Richard Bentley) によって鼓舞されたコーネリウス・クラウンフィールド (Cornelius Crownfield) が、オランダから新たに輸入した美しい活字を使って実現したものであり、出版局の新しい体制と印刷事業の復興を明らかにした。

1705年、L. カスター (Kuster) 編集の Suidas, [*Lexicon*] は、印刷の点では魅力的だったが、出版企画としては不成功に終わった。ドナルド・マッケンジー (Donald McKenzie) は *Cambridge University Press 1698—1721* の中で、この3巻本に携わった数人の植字工の仕事を詳細に分析して、その商業的失敗の悲話を語っている。最後の75部は、実に1752年まで在庫していたという。

ベントレーの影響は18世紀初頭において顕著だった。毎年、彼の名は著

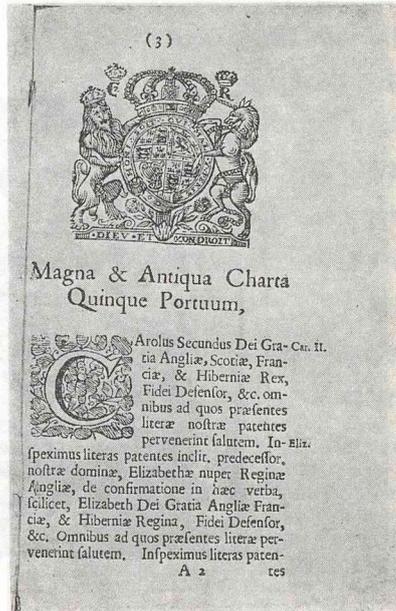
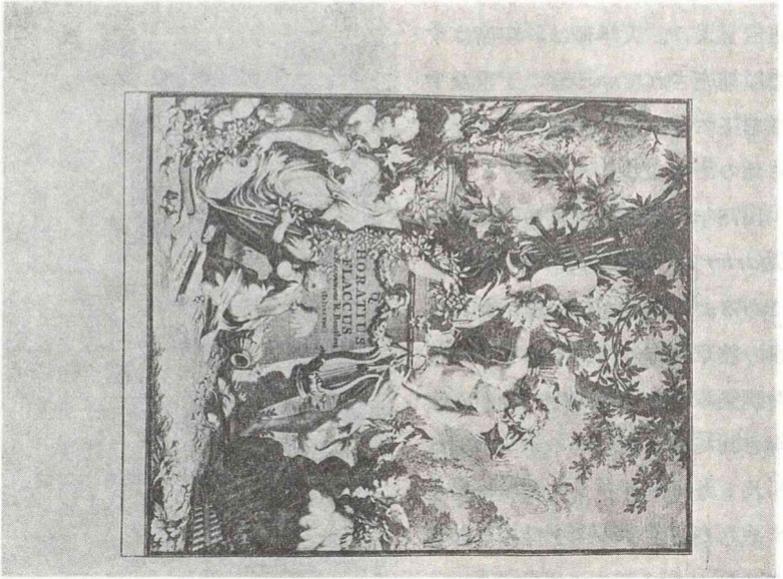


図8 Magna & Antiqua Charta Quinque Portuum (1675) の巻頭の紋章



IN
**Q. HORATIUM
 FLACCUM**
 NOTAE & EMMENDATIONES
RICHARDI BENTLEII
 S. T. P.
 REGIAE MAJESTATI A SACRIS DOMESTICIS,
 BIBLIOTHECARUM REGIARUM CUSTODIS,
 ARCHIDIACONI ELENISIS,
 ET COLLEGIO S. TRINITATIS
 A. P. U. D.
 CANTABRIGIENSIS PRAEFECTI



CANTABRIGIAE, MDCCXI.

9 Horatius, Q. Flaccus. In Q. Horatium Flaccum, notae & emendationes Richardi Bentleii (1711)

者や編者、あるいは献呈者として現れた。名前は記さなかったが、Isaac Newton, *Arithmetica Universalis* (1707) の出版を彼は準備した。私は、彼の手になる *Horace* (1711) が好きだ。それは、彼が紹介した700の新しい異文のためではなく、サイモン・グライベリン (Simon Gribelin) が新たに彫った大学の紋章が載っている表題紙がとても美しいからである (図9)。1715年の火薬陰謀事件記念日 (11月5日) にベントレーが大学で行なった説教 *Sermon upon Popery* は、*Tristram Shandy* の中でトリム伍長が朗唱する説教に利用された。

ケンブリッジでは毎年6～12点が印行されていたが、1717年にはたった1点の小冊が印刷されたにすぎない^{訳注7}。火事等問題となるような記録はなく、その原因は全く不明である。ところで、私はこの小冊 *Sermon preached before the King at King's College Chapel* をデュオデシモ判とオクタヴォ判で持っている。両版を調べてみると、両者は、各々1行の長さが異なるため版組みを変えねばならなかったはずだが、同じ版から印刷されていた。

Conyers Middleton, *Dissertation on the Origin of Printing in England* (1735) では、オックスフォードはカクストン (William Caxton) より早い1468年に活版印刷を行なったという同大学の主張が誤りであることが明らかにされている。今日でも、オックスフォード大学出版局のカタログは次のように始まっている。「オックスフォード最初の本には、1468年の刊年が記されている。」全くその通りである。ケンブリッジでは、まさにこれをオックスフォード最初の誤植と呼んでいる^{訳注8}。1735年にはまた、Lyons, *Hebrew Grammar* と Richard Bentley, *Eight Sermons...* 第6版が刊行された。前者には逆の頁付けが行なわれている。後者は、ケンブリッジ大学出版局刊本の中で唯一女性印刷家の名が記されたものである。彼女はメアリー・フェナー (Mary Fenner) といい、ウィリアム・フェナー (William Fenner) の未亡人で、他の印刷家と共同で印刷工房を経営していた。仲間同士で激しい口論となり、そのうちの1人トーマス・ジ

エイムズ (Thomas James) が副総長に手紙を送り、次のように述べた。「新教を信じるフェナー夫人の信念はいささかも変わらないことを認めざるをえません。」

1730年には風変りな本が現れた。それはラテン語の韻文で綴られた神学、医学、哲学、法律に関する問答集であり、学年末の学位授与式を記念するものだった^{訳注9}。いくつかの問いは奇妙である。キリストの復活についての直後に、気圧計の水銀の上下に関するものがある。ペンブローク・カレッジのウィリアム・トロロープ (William Trollope) がラテン語で気圧計の構造を説明している。「管状の水銀の重りがどのように動くか……。」

この小冊の巻末に、Alexander Pope, *An Ode Compos'd for the Publick Commencement at Cambridge*が収められている。この頌詩は、後に出版されたものがよく知られているが、この版はそれとはかなり違ったものである。

18世紀には数多くの説教が刊行されたが、大半はひどく退屈なものだった。ところが、1776年に刊行されたりチャード・ワトソン博士 (Richard Watson) の *The Principles of the Revolution Vindicated* は興味深い。革命とは、1688年の「輝しい」無血革命のことである。しかし、盛り上がった結びの文で、ワトソンは1776年の事件^{訳注10}に目を向けている。

現在の我々の不調和の始まりは、些細なことだった。その進展は恐ろしいばかりで、終わりは定かでない。西の大陸で起ったこの嵐は、エリヤの召使いが海から湧き上がるのを見たあの雲に例えられよう。初め、それは小さく、人の手ほどもなかったので、大西洋を越えてはほとんど見えなかった。それを見た者は心の中で軽蔑してつぶやいた。「1粒の雨が大海の静けさを乱すことができようか。小さな染みが太陽の輝きを暗くできようか。」ところが、以来それはかくも厚く大きく拡がり、神の顔を曇らせてしまった！ 今やそれは我々の頭上に覆い被さり、今にも土砂降りの雨を降らそうとしている。それは進むにつれ、寄り集まり、

我々の同胞の血で膨れ上がった時、もはや誰の手によっても行く手を阻むことも、破滅的な展開から身を反らすこともできない程強力になるであろう。全能の父なる神よ、我らに慈悲を施し給え。かつての如く、我らに代って天佑を差し延べ給え。王と人民の双方の心に共に益する「平和」を及ぼし給え。

残念ながら、この説教の功德はなかったが、良き読み物となった。

コレクションの中で、最後に特筆すべき本は、トーマス・キプリング (Thomas Kipling) 編 *Codex Theodori Bezae* である。*Codex Bezae* は、大学図書館の至宝の一つで、新約聖書の最古のテキスト (6世紀頃) の一つである。そのファクシミリ版が、1793年に、原本の書体に似せて特別に作られた活字で印刷された (図10)。これは「ケンブリッジ出版局の金字塔」と言われた。これを1世紀後の写真複製版と並べて眺めてみると面白い。

私は、本コレクションが人類の思想の歴史を例証するのにいくらかの価値があることを望んでいる。印刷家と出版者は、著者の言葉を世界に広めるためにだけある。ケンブリッジの著者たちは我々に何を残してくれたのだろうか。何世紀にもわたってこの偉大な出版局から、どのような知識の光が、あるいはまた、徳と知恵の聖杯からどのような滴が湧き出たのだろうか。神学、歴史、数学、哲学、植物

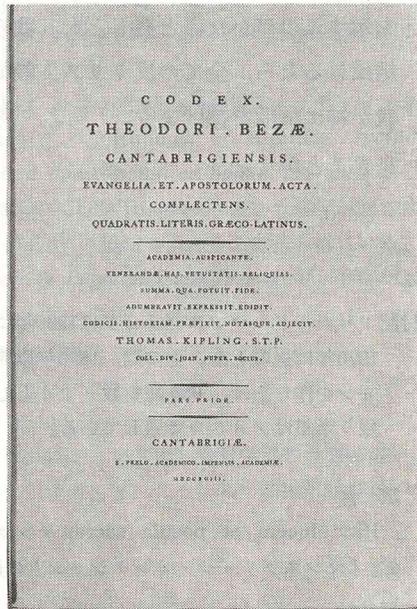


図10 *Codex Theodori Bezae Cantabrigiensis* (1793)

学，そして，それから天文学があまたあった。私は，アメリカのロケットが土星を通過した日に，ロジャー・ロング(Roger Long)の土星の輪に關するかなり詳細な研究(1742年刊)^{訳註11}を読んで感動したことを告白せねばならない。我が著者たちは驚くべき数の詩を残してくれた。時には，人間の品位や理性に対して意見を唱えた。1776年には正義と平和を守る請願もあった。1586年刊行の私の最古の本に戻り，その序文の最後の1節を引用して，終わりとしよう。

かくて，慈悲深き王よ，公爵，伯爵，侯爵よ，名高き男爵，高貴な貴族よ，都市と諸邦よ，賢き牧師と医師よ，そして，要するに全てのキリスト教徒よ，蔓延する不調和の毒を許すべきではない。この有害な蛇を殺し，一つになったキリスト教の精神を携え，受け給え。全世界の目の前で汝らに授けられた，フランスとベルギーの教会と汝らの永遠の友情を示すこの確かな印と兆しとを。我らが，キリストを介した親密な絆で結ばれるなら，全ての反キリスト教徒を打倒できよう。そして，主たる我が神に讃歌を捧げよう。「見よ，同胞が共に住まうとは，何と楽しく良きことかな。」

付記：ロナルド・マンズブリッジは1930年にケンブリッジ大学出版局に就職し，1970年に退職した。その間，1800年以前に出版局から刊行された本のコレクションを作り上げ，600冊を数えようとしている。毎年，半年はイギリスで暮し，残り半年はアメリカで過している。

訳 注

1. *Hinc lucem et pocula sacra*. ケンブリッジ大学の紋章中に記されている題銘。「マンズブリッジ・コレクション」の蔵書票はこの紋章を意匠として用いている。
2. 原文では *Poetae Graeci Minores* となっているが，実際の表題は *Poetae Minores Graeci* である。コレクションでは本書の17世紀後半の版は，1652年，

- 1671年, 1677年, 1684年に刊行された4種類があるが, マンスブリッジ氏が1930年に購入したものは1652年版である。
3. コレクションには, 全部で61部の聖書が含まれている。
 4. ベンサム・フォリオ版聖書は非常に稀覯であり, マンスブリッジ氏自身の調査によれば, 本書を含め英米で6部の存在が確認されるのみである。ケンブリッジ大学図書館でもその第2巻を所蔵するにすぎない。Ronald Mansbridge, 'The Bentham folio Bible', *Factotum: Newsletter of the XVIII th century STC*, No. 19, Oct. 1984, pp. 14—16.
 5. *The Temple* の初版は1633年, 第5版は1638年, 第6版は1641年に刊行された。1623年に刊行されたG.ハーバートの作品は *Oratio de Principis Caroli reditu ex Hispaniis* である。
 6. 原文ではこのように英訳されているが, 実際の表題はラテン語で, *Magna & Antiqua Charta Quinque Portuum* である。
 7. S. C. ロバーツの刊年順の書目では, 1717年に2点が収録されているが, ここで言及されていないもの (*Boyle Lectures*) には刊年が記されていないため, マンスブリッジ氏は1点のみと言っている。実際, ロバーツも *Boyle Lectures* の刊年が確認できなかったため, 1718年にも関係づけている。S. C. Roberts, *A History of the Cambridge University Press 1521—1921*, Cambridge, 1921, p. 181.
 8. オックスフォード大学の最初の刊本は, ケルン出身の印刷家テオドリック・ロート (Theodoric Rood of Cologne) による Rufinus, of Aquileia, *Incipit expositio sancti Ieronimi in symbolum apostolorum ad papam laurentium* であるとみなされている。この本には MCCCCLXVIII (1468) という刊年が記されているが, これは MCCCCLXXVIII (1478) の誤植であろうと考えられている。Nicolas Barker, *The Oxford University Press and the spread of learning*, Oxford, 1978, p. 3.
 9. 書名は *Quaestiones una cum carminibus*.
 10. アメリカ独立戦争のこと。
 11. Roger Long, *Astronomy*, 1742.

(たかはし あきこ 教育学部教員図書室)

(ゆきしま こういち 図書館洋書係)